# 学新春座談会学学のおおりまた。



# 新春座談会出席者(敬称略)

〈ゲスト〉 弘 前 商 工 会 議 所 会頭 永澤 弘夫 【㈱永澤興業 代表取締役】

五所川原商工会議所 会頭 山崎 淳一 【五所川原街づくり㈱ 代表取締役 副社長】 黒石商工会議所 会頭 村上 信吾 【侑レストラン御幸 代表取締役】

### 〈企画・進行〉弘前商工会議所広報委員会

一回"进行/如刖佝上云硪川瓜和安良云			
委!	員 長(司会)	工藤	武重
副委	員長	木村	和生
委	員	三上	貴生
委	員	阿保	秀樹
委	員	三浦	利吏
委		717111	悟

### 【工藤委員長】(司会)

新年明けましておめでとうございます。

本日は、「津軽三市商工会議所会頭に聞く」と題し、三市の商工会議所会頭をゲストにお招きして、津軽一円、また各市における展望など様々な事柄について大いに語っていただきたいと考えております。

それでは、さっそくではございますが、三会頭に会頭就任にあたってどのようなことを思われたのか、また今後の展望についてお伺いしたいと思います。

最初に二期目に入りました当商工会議所永澤会頭にご 発言の口火を切っていただきたいと思いますので、よろしく お願いいたします。

# 「3会頭の就任の抱負」

### 【永澤会頭】

私はこれまで、「地域を先導する商工会議所」を掲げ、4つの柱として、商工会議所法で定められている「建議活動の強化」、中心市街地の活性化に向けた「まちそだての推進」への取り組み、本来の商工会議所の



目的である「中小企業支援の強化」と「組織・財政基盤の強化」について取り組んでまいりました。

二期目も今までの4つの柱をさらに進化させてまいりたいと考えております。

また観光面においては、葛西弘前市長が、平成26年度の 北陸新幹線の開通により、秋田県北・岩手県北・角館・平泉・ 花巻を訪れる観光客が、金沢に流れ込んでしまうのではと いう危機感を持っておられますが、私も同感であります。

翌平成27年度の北海道新幹線函館開業に向けては、そのような事が無いように、前期から取り組んできた函館商工会議所との交流事業を引き続き進めていきたいと考えており、函館とともに、お互いに観光客の誘致をはじめあらゆる産業について、"面"によるまちおこしに強く取り組んでまいりたいと考えております。

そして、それは函館と弘前という関係だけではなく、五所 川原、黒石を含めた津軽地域全体で、取り組んでいきたいと 考えております。

さらに日本商工会議所の観光振興大会をきっかけに下関商工会議所とも交流を進めており、「下関ふく(河豚)を食べる会」の開催はじめ、「津軽の食と産業まつり」には、下関の名産品を出品していただくなど、人・モノの交流が広がっています。

まさに少子高齢化・過疎化のなかで、できることはなんでも行い、まちの活性化につなげたいと考えています。 【司会】

ありがとうございました。それでは五所川原商工会議所の新会頭山崎様にお願いいたします。

# 【山崎会頭】

実は私は11月の1日に就任しましたが、現在は25年度事業計画が進行中ということで、寺田前会頭の事業計画書の中で、「観光振興を起爆剤に商工業者と地域経済の振興発展のために、地域に愛される、行動



する商工会議所をめざす」という方針のもとで、8つの主要な事業が策定されております。本年度については、これを大事に活動していくという展開になります。

そこで、今期より会頭に就任したということで、次年度以 降大切にしていきたいと思っていることをお話しさせてい ただきます。 まず3つの視点を大事にしたいと思っています。それは「ビジョン」「戦略」「人づくり」の3つです。

まず、ビジョンについてですが、たくさんある商工会議所の責務の中、地域活性化への貢献と会員企業の支援が特に 重要ではないかと考えています。

地域活性化実現のためには、五所川原の将来の街の姿をどのように想定し描くのかということを、私だけではなく、関わる人たちが明確にして、できれば共有していくということから始めたいと思います。

そのビジョンが明確になった後、それを実現するための 戦略を構築していきたい。今までの活動を継続することも あると思いますが、新規にいろいろなことを考えていきたい と思っています。

そして最も重要な事が、五所川原というまちを作った主要な人々と、今後時代を担っていく青年部等の若いメンバーの両方に接点を持つ私が、先輩たちの想いを後輩たちにつなげていく、バトンタッチの役割もあると強く感じています。

### 【司会】

ありがとうございました。それでは黒石商工会議所の村 上会頭にもお願いいたします。

# 【村上会頭】

黒石商工会議所会頭の村上でございます。私は今回で二期目ということになりますが、一期目の時は前会頭が途中で辞任されたため、残任期間の1年間会頭を務めさせていただきました。



二期目になって、今後は商工会議所がすべきことを模索 しながら、1年間の経験を活かしていきたいと考えておりま す。

黒石では、4万人以上あった人口が今現在は3万5千人 ほどに減少しています。また、空き店舗もずいぶんと増えて きています。

そのためにお客様の足が遠のくという悪循環になっているまちは黒石だけではないかと思いますが、商店街の活性化に向けて、商工会議所がするべきことを今期発見していきたいと思っています。

また、商工会議所の方針として、「会員の事業所の経営の 安定」については、これまでも重点事業として掲げてきてお りますが、今後も続けていかなければいけない事業だと思 っております。

さらに会員の事業所が元気になるための経営指導も重要です。会員の減少が進むなかで、廃業に追い込まれないように指導をしていきたいと思っています。あるいは、会員事業所の経営安定に向けたセミナーや講習会を開催する事も、大切であると思っています。

また、「開かれた会議所」である事も、重点事業になっていますので、会員への有意義な情報の発信、時代に要求された事業の展開を推進することに加えて、いつでも気軽に相談に来られるような体制づくりもしていかなければいけないと思っています。併せて、部会・委員会を積極的に開催して、今直面している諸問題を取り上げ、解決策を検討していくということも必要だと思っています。

中心商店街の活性化という観点では、シャッター通りの再生計画を今期の重点事業の1つに掲げていきたいと思っています。

様々な問題を抱えているなかでではございますが、行政 と一体になり、また県連合会・日商とも連携をとりながら進 めていかなければいけないと思っています。

また、それに伴って観光振興のほうも進めていかなければならない。黒石には「黒石ねぷた」「黒石よされ」「こみせ

祭り」など様々なまつりやイベントが開催されているわけでおりますが、年々集客が落ち込んでいる中で、中野もみじ山の「もみじまつり」は集客が増えているという結果が出ています。黒石にも、そういった魅力のある資源がたくさんあるわけですので、それを活かした観光振興を進めていきたいと思っています。

## 「地方都市の縮小経済について」

### 【司会】

近年、少子高齢化や労働力の流出など、地方経済は非常に深刻な打撃を受けておりますが、このことについて永澤 会頭は、どのようにお考えですか。

### 【永澤会頭】

少子高齢化・過疎化は今日本が一番悩んでいる問題だと 思います。しかも、全国で平均的にではなく、地方都市では 拍車をかけて進行すると思います。

そうなってしまうと、何の産業も成り立たなくなってしまいます。

少子高齢化への取り組みは本来、国政の問題だと思いますが、だからと言って地方都市として放っておいていい問題ではないと思います。

地方都市に住む我々が積極的に果敢に取り組んでいかなければならないと思います。

弘前では、「弘前感交劇場」という地域にあるもの全てを舞台装置と考え、まちの活性化に取り組んでいます。当所でもその一環で、特に若い人たちに向けたイベントとして当時全国的に行われていた街コンの弘前版「ひろさき合コンリーグ」を実施しました。

合コンとして楽しむという方ももちろんおられますが、結婚相手を探そうと真剣に取り組んでおられる方もいて、2組のカップルから結婚したという報告がありました。

このような出会いの場を用意するということも1つの当所の大きな仕事だと思います。

さらに昨年、当所では、弘前大学と連携協定を結びました。弘前大学があるおかげで、弘前に若い方が定着しておりますし、少子高齢化問題についてゼミなどで取り組んでいただきたいと思っています。そして「産・学・官」に金融機関の「金」を加えた「産・学・官・金」によるオール弘前での取り組みを今後目指していきたいと思っています。

「前例がないから」「やったことがないから」という話はやめて、新しいことに果敢にチャレンジしようという姿勢が大事だと思います。

### 【司会】

ありがとうございます。それでは山崎会頭お願いいたします。

# 【山崎会頭】

今、永澤会頭からは、日本全体の課題についてのお話がありましたが、私は五所川原の立場からお話させていただきます。

現在、五所川原市では、小学生の数が、学校が成り立たなくなるのではというほどまで減少しており、地域の将来に不安を感じております。

その意味では、弘前さんは、学園都市であり、東北の中では仙台に次ぐ「住みたいまち」と言われているなど若い人が 集まりやすい街だと感じております。五所川原にもその良い 影響が波及してくれればなと思っております。

商業の観点では、五所川原には、「五所川原商人」という 言葉があります。昔日本海交易が盛んだった頃に、津軽平野 の真ん中に位置するという立地の優位性から、五所川原が 商人のまちとして栄えたという経緯があります。

実はこの立地の優位性は、今も変わらずにあります。これまでは、五所川原から各都市への流れだけだったのですが、道路が整備されることによって、逆の流れも生まれて来ています。これまでの西北五という商圏だけではなく、津軽という商圏の中で五所川原は成り立っています。

行政圏と異なり、商圏は消費者が「行きたい」と思うことで構築されます。五所川原では、これからも、わざわざ来ていただけるようなまちづくりや施設づくりを通して、魅力を作り上げる事が、これからの縮小経済に対する五所川原の対抗策ではないかと考えています。

# 【司会】

ありがとうございました。続きまして村上会頭お願いします。

### 【村上会頭】

少子高齢化については、女性・男性共に今日結婚したくないと思っている人が多くなっているのではないでしょうか。 子どもを産みたくても育てられないから産まないという人も随分いるのではないでしょうか。そういう意味では、働ける場所、安心して子どもを産める環境づくりというものが大切になってくると思います。少子高齢化は、全国的な問題だと思いますので、できるだけ行政と商工会議所が一緒になって、そういう環境づくりを考えてくことが大事だと思います。